

バイオシュートイ

サッチ分解促進剤

サッチを適正にして、芝の維持管理を効率化!



- 土壌処理剤(除草剤)の効果を安定させる。
- 通気性を良くし、結果として病害軽減にもつながる。
- 水はけが良くなり、適正な保水により健全な芝を管理できる。
- 芝が健全になり、コース管理を省力化できる。

サッチ(有機残渣)は芝の刈粕や落葉が枯れた状態で、芝の根と土砂に絡み合って層を作っています。

サッチが1cm以上過剰に堆積すると、除草剤、特に土壌処理剤はサッチに吸収されて効果が低下する場合があります。また、芝の葉腐病やコガネムシの幼虫などの温床にもなります。

長年、芝を栽培し維持管理しているゴルフ場ではサッチの除去はスーパーなどで取り除いても、すべて取り除くことはできません。特にグリーン周りの窪んだ所、芝丈の長いラフにおいては、サッチを除去することはたいへん難しいといえます。



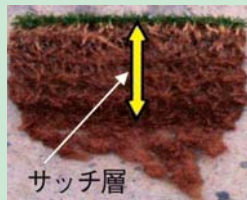
株式会社 **エステー・エス バイオテック**

サッチ分解促進剤

バイオシュート



バイオシュートは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。



■ バイオシュートの特性

- ① 水和剤ですので、土壌処理剤、殺菌・殺虫剤との混用散布が出来ます。
- ② 地温10℃以上でパチルス菌が活動し、サッチの分解を助けます。

- 成分：パチルス・ズブチリス菌
- 性状：淡褐色水和性粉末
- 荷姿：500gアルミ袋入り×10袋/ケース

07年度サッチ分解促進効果の確認

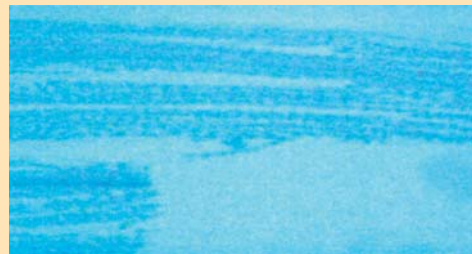
1回目散布は5月7日、2回目散布は6月14日で0.2g/m²を散布(水量は250mlで土壌処理剤と同じ方法で散布)
2回目散布2ヶ月後に調査
芝の種類はL-93でグリーンナーセリーで試験(Aゴルフ倶楽部)

散布濃度	サッチの厚み	減少率(%)
0.2g/m ² 1回散布	0.8cm	33.3
0.2g/m ² 2回散布	0.3cm	75.0
A分解剤1回散布	0.9cm	25.0
無処理	1.2cm	

■ 25℃ 1ヶ月後のコウライシバの分解状況(容器内での試験)

【バイオシュート処理】

A剤、無処理よりも分解が進んでいる。



【A剤処理】

無処理と比較すると分解が進んでいる。

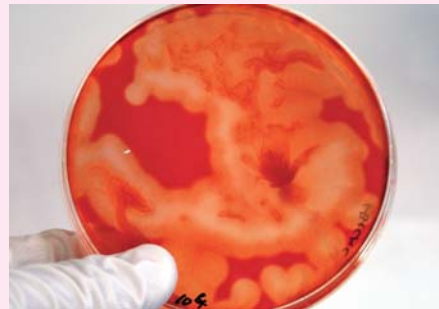


【無処理】

分解が進んでいない。



■ バイオシュートによるセルロースの分解の様子



※菌株を接種し24時間後のセルロースの分解によるハロー形成を観察

■ バイオシュートの使用目的

サッチ層を適正に保つことは、健全な芝の育成に欠かせない条件であり、葉腐病などの病害発生の抑制及び土壌処理剤(除草剤)の効果安定につながります。

■ 使用時期

- 地温10℃以上の時期が望ましいです。
- サッチが多い場合は、**春と秋の2回散布**が効果的です。

■ 散布場所

- グリーン周りのサッチの取りづらいラフ、排水の悪い場所、フェアウェイに使用するとサッチの分解が促進され、土壌処理剤の効果安定します。
- バイオシュートはフェアウェイだけでなく、ティグラウンド、グリーンにも使えます。

■ バイオシュートの使い方・使用量

- バイオシュートは水和剤ですので水に溶かしてお使い下さい。
- 使用量:**0.2~0.4g/m²**(※ バイオシュートは資材ですので使用量はメーカー推奨の目安です)
散布水量は通常の殺菌剤、殺虫剤、除草剤を使用する量で十分です。200ml~1,000ml/m²
- 土壌処理剤(除草剤)を散布する時には水量が少ないと思いますので、後散水を200~300ml/m²するとより効果的です。

■ 使用手順及び注意

- バイオシュートは粉末の水和剤です。ご使用の際は粉立ちにご注意下さい。
- なるべくバイオシュートを先に入れ、散布液を調製し、よくかき混ぜてからご使用下さい。
- 本資剤はTPN剤及び、キャプタン剤をはじめほとんどの農薬と混用できますが、**マイシン剤などの抗生物質とは混用しないでください。**
- 開封後は、できるだけ早く使い切ってください。

製造

株式会社 **エス・ディー・エス バイオテック**
〒103-0004 東京都中央区東日本橋一丁目1番5号
TEL 03-5825-5522

販売